

2026 年 年頭所感

取締役頭取 石田 諭



あけましておめでとうございます。2026 年の新春を迎え、謹んでお慶び申し上げます。

昨年は、2 月の新本店ビルへの本部機能および本店営業部の移転、4 月の新体制の発足と新中期経営計画のスタートなど当行グループにとって節目となる一年となりました。

取り巻く経済環境は、世界的な物価上昇や金利変動、供給網の混乱などを受け、先行きの不透明な状況が続いており、また、AI の進化が社会や産業構造を変える局面を迎えていると考えています。

さらに、国内では人口減少といった構造的な課題も顕在化する一方で、国内の信用調査機関によれば、全国企業の約 6 割が設備投資を計画しています。また、当行シンクタンクの調査によれば、地元企業でも同様の前向きな動きが確認されるなど、地域経済に明るい兆しが見られます。

こうしたなか、当行グループは地域金融機関として持続的な成長に向けた地域の挑戦を、金融と知見の両面から支えていく役割が求められており、創業支援やスタートアップを起点とした地域の活性化に向け自治体との連携した取組などを進めています。

そして、これらの取組を実行し、地域の成長につなげていく最大の原動力は「人財」であると考えており、お客さまお一人おひとりの課題に真摯に向き合い、新たな価値を創造できる人財が、当行グループの競争力の源泉であると確信しています。

そうした考えのもと、人財育成と組織文化の変革に取り組んでいますが、本年は、こうした取組の成果をステークホルダーの皆さまに実感していただける一年となるよう、役職員一丸となって挑戦を続けてまいります。